

# 第五回 であい展



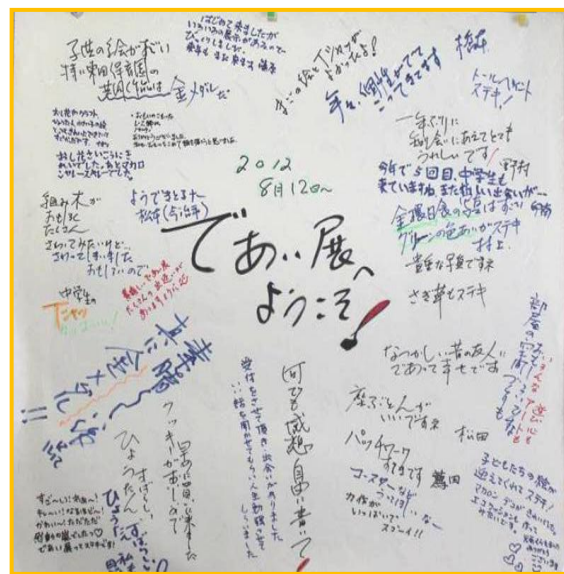
今年の「であい展」は8月12日から16日まで地元の夏祭りと同時間開催。「であい展」は日頃当館で活動しているサークル、各教室の作品や活動のようすを展示して皆さんに見



ていただこうとするもの。それぞれ活動する曜日や時間帯が異なるため、お互いに見知らぬ間柄。

それが、この「であい展」が言葉通りの「であいの場」となっている。

8月7日に出展者の代表者会をもって、それぞれの展示場所を決定、翌8日から展示作業開始。ご協力を得て泉川小、中学校のほかには泉川保育園、東田保育園、瀬戸児童館からもたくさんの絵画等が届けられ、サークルの皆さんの手で飾り付けが出来た次第。来館者の質問には出展した人がていねいに説明。ひときわ目を引いたのは地元写真家がとらえた5月21日の「金環日食」。見る人の足がそこで止まる。会場入り口に用意された用紙に来館者が感想を書いていて、雰囲気がよくわかる。「いろんな展示がありびっくり・・・」とか「売ってほしいなあ」。また「面白い組み木、さわってみたい・・・」のすぐ下に別の字で「さわってしまいました!」とあった。



16日は「であい展」最終日でもあり地元瀬戸・寿の「夏祭り」でもある。自治会の皆さんは朝早くから準備に大忙し。盆踊りのヤグラに紅白の幕を張り、売店用のテントを並べる。それらに万国旗や提灯を飾り夜を待つ。陽が傾き、スピーカーから流れる音楽に誘われて人々が集まってきた。今年も連合自治会長盛川さんのあいさつ、佐々木市長のお祝いの言葉で幕開け。盆踊りは6年生田尾龍斗君の名アナウンスで進められ、「しっし踊り」では「亡くなった人の冥福を祈る念仏の踊りです。」と説明し、原南海男さん、原友久さんの太鼓で伝統の、静かで力強いリズムの踊りが始まった。踊りの輪の外側を満席の椅子が取り囲み、唐揚げ、焼きイカなどの匂いがテントの店から届けられる。どのテントの前にも人垣ができていて、ジュースやアイスクリームが無料なのがうれしかった。そこそこで、久しぶりの会話に花が咲く。小さい子どもたちの歓声がいつまでも続き、今年も心に残る夏祭りだった。

# あい展

瀬戸会館だより  
平成24年9月号  
新居浜市瀬戸会館  
〒792-0821  
新居浜市瀬戸町7-30  
E-mail  
seto@city.niihama.  
ehime.jp  
TEL 0897  
41-5859  
(FAX 兼用)

9月公演  
回転木馬  
おはなし会  
9月5日予定  
10:30~11:00  
瀬戸児童館



## 瀬戸・寿夏祭り



## 人権あらかると

### 私の人権宣言（1）

中学校 1年生

今、私のクラスには『学級人権宣言』があります。私はこの宣言をととても大切に思っています。いろいろな人権学習を通して身に付けてきた人権意識を十分に生かしてクラス全員で作あげた世界に一つだけの宣言。「当たり前なことだ」と思うものもあれば、「こういうときはそうすればいいのか」と驚くものもあります。でもその分、完成するまでにはとても長い時間が必要でした。

ある日、授業で「学級人権作り」という内容がありました。はじめ、私は「いつもしているような人権の学習かな。」と思いましたが、いざ、先生が授業を始めると、先生は「世界に一つしかない、このクラスだけの人権宣言をつくる。」と話し始めました。驚いて、「えっ、このクラスに人権宣言？」と思いましたが、『世界に一つだけ』と聞いて、胸がワクワクするのを感じました。まず、先生は「いじめられた時どうするか？」「いじめを見たときどうするか？」という質問をしました。私は考えて「もし、いじめられたら親や親友に相談しよう。」そう思いました。でも、先生は、「一人で悩んで抱え込んでしまう人もいます。でも、そういう人は、これから絶対に一人で悩むな！」と言ったのです。私はそのとき初めて、「ああ、一人で抱え込んで誰にも相談できない人だっているんだ。友達に相談できる私は幸せなんだ。」と思いました。でも私は、「いじめられたら」という質問が、表現が、とても怖かったです。もしそうなったらどうしよう、本当に相談できるのかな……。そんな考えが頭の中をグルグルと回りました。

平成20年度 人権・同和教育資料

『人権作文集』（新居浜市教育委員会）より



### にぎやかに星原市

8月19日（日）、星原市実行委員会が主催する第29回「星原市」が泉川の星の宮神社境内で開かれた。この神社では今から千二百年くらい前、京都に都がおかれた平安時代から、7月と12月の年2回、約2週間物々交換の市が開かれ、近郷近在から数千人が集うにぎやかさだったという。境内の中央にはヤグラが建ち、大きな垂れ幕に「好きやけんの！！泉川」という文字が躍る。



### 「人権のつどい日」にひろう

8月11日（土）は「社会的立場の自覚を促す教育を推進して」と題する川之江南中学校長宮内則人さんの講演だった。



話は『なんでこんなに可愛いのか〜』と演歌「孫」で始まる。それは差別が残る今、子どもが生まれても「うれしさ半分、あとの半分は・・・」と地区のお母さんが悩む姿につながる。「同和教育の授業があった日に、娘から『〇〇にも差別される地区があるの？』と聞かれ、これがキッカケだと思って自覚させました。娘は涙を流していましたが、そのあとは冷静に話を聞いてくれました。」と共に闘う親子の話。

「すべての人間がそれぞれの立場を自覚して」、「教師の社会的立場とは何か。それは教え子を、差別する子に、あるいは差別を受ける子にしたくない、ということだろう。」とも語る。静かな語り口の中に、重い内容がいくつも詰まっていた。

### 市職員の人権・同和教育研修

新居浜市役所に勤務する職員（臨時、非常勤を含む）を対象とした標記の研修が、8月8日と10日の2日間にわたって市民文化センターで実施された。講師は県立西条高等学校教諭の石田伸一さんで、演題は「明るい展望に立った人権・同和教育の展開」。

石田さんは初めに『世界の日本人ジョーク集』（中公新書）からステレオタイプのいくつかを紹介して会場を沸かす。そして、差別や偏見のメカニズムを図式的に提示され、その図式の流れを順にたどれば、なるほど！とわかる。また教科書や高校生の副読本『人間の輪』の人権・同和教育に関する記述内容の変遷にもふれた。さらに、地区の皆さんとの交流の中から学んだことば「『差別というのは、見ようとしないと見えないもんなんだ』と、しみじみ実感を語られた。

### 9月の主な行事予定

9月5・19日（水）－ 移動図書館

9月11日（火）－ 人権のつどい日

いくつかのテントがヤグラを囲み、農家直売の野菜、かき氷、ジュース等が店頭に並ぶ。チャリティーバザーも出店。カラオケのステージでは演歌の合間に幼児も登場、「崖の上のポニョ」の歌声が流れる。土俵上では廻しをつけた小学生が学年別の相撲を取っている。行司役の下川正さんや補助役の防犯協会泉川支部の役員さんも忙しそう。「今年初めての試み、そうめん流しはどうでしょうか」という案内放送は、公民館の高津章さんの声。大人200円、小人100円だとか。木陰に設置した竹の樋をはさんでたくさんの親子が立ち、流れてくるそうめんを楽しそうにすくう。

最終を飾るのは「餅投げ」。佐々木市長や役員らが餅を両手にかかえてヤグラの上から次々と投げる。空中でつかもうとする人、下で拾う人、さまざま。ひときわ高く「黄色いテープがついたものは『当たり餅』でェ〜す」とスピーカーからの声。今年の境内も、人々のにぎやかな声とせみの声が競っているようであった。